

# 京都教会に於ける世界聖餐日礼拝

佐 野 昇

(件名) 世界聖餐日礼拝

(種別) 主日公同朝礼拝 聖餐式礼拝

(日時) 1964 (昭39) 年10月4日 (日)

午前10時15分～12時15分

(場所) 京都市中京区富小路二条下る, 日本キリスト教団 京都教会

## 序

これは上記の件についての報告であるが、参考迄に京都教会の概様を記すと以下の通りである。

〔当日現在の会員数〕現住陪餐会員377, 不在陪餐会員175, 未陪餐会員25, 以上合計577, 別帳会員464, 総計1041,

〔1963年度主要集会総計・1回の平均出席者〕主日朝礼拝135, 主日夕礼拝8, 祈祷会8, 聖書研究会17,

〔1963年度経常費決算〕収入263万5千円, 支出210万7千円。

〔教師〕主任担任教師・大山寛 (正教師), 担任教師・佐野昇 (正教師), 神学教師・飯峯明 (同志社大学神学部教授), 竹中正夫 (同志社大学神学部教授)。他に主事1名。

京都教会は地域教会としての性格は稀薄で, 京都市全域に出席会員, 求道者を有し, 都心教会としての性格が強い。会員の構成は医師, 教育者, サラリーマン, BG 等所謂ホワイト・カラーが大多数である。かつては学生・青年層が多く, 学生教会とさえ云われ勝ちの時期もあったが, 今ではむしろ中・高年層

の一般知識層を主とした教会である。主任牧師の方針は主日朝礼拝を極度に重視する礼拝及び集会中心主義である。主日朝礼拝の説教は殆んど主任牧師が担当、高度に福音的で知的思弁的傾向が強い。礼拝はリタージカルな面が強く洗練されている。

通常聖餐式は、クリスマス礼拝、教会創立記念礼拝、洗足木曜日、復活主日礼拝、聖霊降臨主日礼拝、振起日礼拝、世界聖餐日礼拝に執行され、洗足木曜日を除いては主日朝礼拝の中で行なう。聖餐式を含む朝礼拝の順序は次の通りである。

奏楽、招詞、讃詠、主の祈、交読、信条、讃美、聖書、牧会祈祷、合唱、説教、讃美、聖餐式、献金、頌栄、祝祷、報告、

聖餐式に用いるパンとブドウ酒はあらかじめ分餐されて居り、礼拝の頭初から説教壇と会衆席の中間の中央に置かれた聖餐卓の上に用意されている。聖餐式は大体教団文語式文に準じて行なわれる。陪餐者は各自の席に座したままで配餐者（役員が奉仕）によって配餐される順に受餐する。その順序は司式者、会衆、配餐者である。以上が京都教会に於ける平常の概様である。

### 世界聖餐日特別礼拝企画経過

発想企画推進者は竹中正夫氏である。同氏が南米旅行の際、非常に感動的な聖餐式を体験された。その時の式文と体験にもとづき世界聖餐日の設定趣旨を十分に生かすために特別礼拝を実行してみる事を提案され、教務会で神学的に検討の上、役員会の承認を経て竹中氏指導のもとに実行する事に決定した。

その動機、趣旨は大略以下の通りである。

① 聖餐式がキリスト教会とキリスト者にとって如何に基礎的な重要事であるかは一応理解されてはいるが、実際には現実生活との関係が自覚され難く、その内容的意味を陪餐者各自が深く反省自覚する事なくただ重要な聖礼典として反復しているにすぎぬと云う傾向がないとは云えない。そこで、聖餐は實質的にキリスト教会とキリスト者の信仰と生活の基礎であり支柱である事を明白に示し参加者がそれを感得出来る聖餐式を守りたい。

② 世界聖餐日の設定されている意義をより深く自覚理解し、それにもとづ

いて此の日の礼拝を積極的に意義づける。主の聖餐によって世界のキリスト者が一つにされている事、互に共通の糧で養なわれている兄弟姉妹であり共通の使命に生きるものであることを明確にし、あるべき姿に程遠い私達と世界の現実の悲惨を深く反省さんげし新らたな決心に導かれ、主にある勝利の希望に生かされて世界のキリスト者の一員としての光栄と責任の自覚に導かれたい。

以上の動機、趣旨を実現するために以下の諸点が考慮された。

- ① 聖餐式に於ける希望、愛、勝利の面を強調する。
- ② 聖餐の reality を参加者の actuality にする様に配慮する。そのために参加者全員で礼拝をつくりあげ、守るのだと云う精神的準備を徹底させる。
- ③ そのために出来るだけ多くの人々が計画実行のために直接に奉仕する様に配慮する。
- ④ 受餐は、従来の自席での受餐を変更し、聖餐桌の前に出て来て行なう。
- ⑤ 礼拝内容、礼拝堂装飾等凡ての意味内容の表現伝達を明解にする。
- ⑥ 特に世界は主にあって一つであると云うことと、礼拝と生活との結合を明確に自覚出来る様に工夫する。

## 準 備

以上の趣旨と方向とにもとづき具体的準備に入った。

〈第1回準備会〉9月19日(土)午後7時半～9時。於教会。教会役員、教会内各団体代表者の中から17名が出席。下記内容のプリント配布。

### 世界聖餐日の準備のために

〔聖餐の意味〕人間となって世界に来たり、罪と死に打ち勝ちたもうたキリストのからだをうけ、教会全体がキリストのからだとしての交わりを回復し、この世に再びつかわされて行くところの勝利と喜びにみちた愛餐である。世界についての二重の意味①全世界 International ②わたしたちの世界（この世）

〔新しいころみとして〕わたしたちの生活と礼拝を結ぶにふさわしい聖餐の守り方について検討をなし、みんなが聖餐について学び、みんなの生活の中からわたしたちの時代と状況にふさわしい聖餐式をつくって行く様につとめたい。これは一つのころみである。

〔参加者と担当者〕聖餐は凡ての人々が参加する。たんなる儀式ではなく、一つのドラマである。みんながこれに加わること、だれひとりとして傍観者でないことが重要。

#### 役割, 担当者案記略

〔順序〕**I 準備**。聖餐の心ぞなえをする。**II 御言の聖務**。説教「信仰の奇跡」ロージャ・ヘイゼルトン博士。信仰告白。**III 聖餐の聖務**。とりなしの祈り。世界、日本、諸教会、わたしたちのニュース。主の祈り。捧献。感謝。受餐。祝祷。 (以上プリント内容)

以上に従って理念、趣旨、方針を竹中正夫氏が説明の後協議、プログラム内容とその意義の説明と協議、各役割担当者を決定、具体的準備手続を決定した。その主要事項は次の通りである。

1. 役割名及び員数。司会者 1, 司式者 2, 祝祷者 1, 説教者 1, 通訳者 1, オーガニスト 1, 聖歌隊若干名, 交読リーダー 3, 聖書朗読者 3, ニュース報告者 5, 聖餐準備係 4, 受付献金 4, 会場係 4, 外人接待係 1, 陪餐者誘導係 2, 世界教会ニュース展示作成係若干名,

2. 激動する現代世界にあって、礼拝を行ない聖餐を行なう事の意義を自覚するために、聖餐式の前に世界、日本、その他身のニュースを報告する。各地に於ける関係者からニュース、メッセージの提供を受ける様手配する。

3. 聖餐式に関連して次項が提案された。

- ① 聖餐物素は最初から聖餐卓に置かず、聖餐式直前に捧献する。
- ② その時に生活と聖餐との密接さを表現するため数名の代表者によって自分達の生活のシンボルを献材する。
- ③ 受餐は自席で行なわず、聖餐卓の前で行なう。
- ④ ひとつのみからだが分かたれると云う事を表現するために式中でパンをさき、ぶどう酒はひとつの容器から受ける。

以上の提案に関する結論は次の通り。わたしたちの受容出来るシンボルの質と限界及び日本人の表現及び感受性の特色、京都教会の現状等からみて、余りに異質的なものはそれ自身が有意義なものであっても異和感を起すと云う理由で、②は否決。又以上の理由に衛生的感覚をも含めてひとつの容器からぶどう

を受ける事はせず、従来通り分餐形式で受ける事に決定。

4. 献金。礼拝参加前に受付で行なう。当日の献金はミシシッピー・デルタ地帯の黒人成人教育センター設立のために献じる。

5. 礼拝用語。式文的なものは文語、説明的なものは口語を用いる。

6. 各分担を確認決定し、自分の役割の意義をよく理解して準備を行なう。  
10月3日夜に担当者全員が集って練習仕上げを行なう。

その後の準備は精神的準備と実務的準備とを十分に行なう事を目指した。精神的準備としては此の日の趣旨を会員に徹底さすとともに次の様な実務的準備を行なった。

- ① 週報予告。9月13日、20日、27日号。
- ② 案内状作成。9月20日礼拝出席者に配布、欠席者には郵送。
- ③ 英文案内状を作成、内容次頁の通り。

下記に配布郵送、掲示報道を依頼した。

京都教区長、市内在住外人宣教師、同志社関係外人教師、ハワイ寮、アーモスト寮、同志社女子大、京都韓国教会、京都中国教会、アメリカ文化センター、イギリス文化センター、ジャパントイムス、英文毎日、アサヒイブニングニュース、キリスト教世界、NCC、IBC、京都日本語学校、京都駅前観光会館、日本交通交社、京都市長、京都市外事課、ミヤコホテル、京都ホテル、国際観光ホテル、俵屋旅館、柘屋旅館。

④ 竹中正夫氏が解説付の礼拝式文を作成、印刷して9月27日(日)朝礼拝に配布説明。

⑤ 同上英文の解説式文を作成。

〈最終準備会〉10月3日(土)午後7時～9時、於教会。説教者ヘイゼルトン博士及び礼拝担当者全員が集り、竹中正夫氏指導によって式文通りの練習を行った。その他会場準備、展示等を完了した。

**Invitation to the Special Communion Service**  
**at Kyoto Church on the World Communion Sunday**

Time : at 10 : 15 AM, October 4, 1964

Place : Kyoto Church, United Church of Christ in Japan. Tominokoji Nijyo  
Sagaru, Nakagyo-ku, Kyoto

Preacher : Dr. Roger Hazelton, Dean of the Graduate School of Theology  
Oberlin College, Oberlin, Ohio

Celebrants : Rev. Yutaka Oyama, Rev. Noboru Sano

Chairman of Organizing Committee : Professor Masao Takenaka

You are cordially invited to the communion service specially organized by Kyoto Church on the occasion of the World Communion Sunday. This year we have made a special arrangement to celebrate the communion in remembering the needs and concerns of the present world, having the news and messages from the churches in the different parts of the world, including East Harlem Protestant Parish, New York ; United Church in Darwid, Northern Territory, Australia ; and Frontier Ministry Among Students in Okayama. The offering will be made to strengthen the Mississippi Project which has been helping the Negre Adults Education in order to attain more Negro Voters.

Dr. Roger Hazelton, Dean of the Graduate School of Theology, Oberlin College is the guest speaker. He will speak on "Miracle of Faith". Those who are baptized members of the church whatever denomination may be are cordially invited to take part in the drama of communion in which everyone is going to participate.

Sincerely yours,

Yutaka Oyama  
Minister of Kyoto Church

## 当 日

以上の様な精神的事務的両面の十分な準備の後に当日の礼拝が行なわれた。そのため平常の礼拝と形式内容ともかなり相違した礼拝であったにもかかわらず、非常に順調に進行した。概様は次の通りである。

① 最初からの登壇者はオルターを中心に向って左側に司会者、聖書朗読者、右側に説教者、通訳者、祝祷者。交読文リーダー、ニュース担当者は礼拝堂後部から拡声器を使用。これは礼拝役割担当者全員が登壇出来ないと云うスペースの問題からの理由ばかりではなく、全会衆を前後からはさんで礼拝をリード進行させる事により、礼拝堂全体が礼拝の舞台であると云う自覚を明示し、礼拝に於ける傍観的態度を防止する効果をねらったものであって、一応成功であった。

② 前後の連絡と進行指導は、前部は司会者、後部は副牧師が行ない、副牧師は聖餐司式を兼ねているので、献体と同時に登壇。

③ その礼拝内容は以下の式文の通りである。参考迄に和文、英文の全文を記す。

④ 聖餐式に当り、司式者は以下の様な説明を行なった。

『只今から皆さんに聖餐にあずかって頂きますが、これは最も深い意味をもつ救いの秘義を伝える聖礼典です。教会は古来キリスト教会で洗礼を受けた人がこれにあずかるという秩序を守っています。どこの教会、如何なる教派でも、イエスはキリストであると云う信仰告白をして受洗された方はひとり残らずおあずかり下さい。主の御命令です。然し、まだその信仰を告白していない方、洗礼をお受けになっていない方はしばらく各自の席でお待ち下さい。祈りの中にイエスの御受難を思いめぐらして下さいれば幸いです。そして一日も早く皆さんが信仰を告白され、受洗されて主を中心としたわたしたちのこの喜びの交わりに実際に御参加下さる様に、わたしたちは祈りつつおまちしています。

尚聖餐の受け方ですが、先ず、登壇者、続いて聖歌隊があずかります。その仕方に従って下されば結構です。二人の案内の方が席の横に立ちますから、そこから前の席の方が前に出て来て聖餐桌の前に半円形に並び聖餐をお受下さい。』

(和文式文)

## I 準備

式は信仰の告白  
ではじまる。

キリストの復活  
と勝利をおぼえ  
て讃美をうたう

復活ののちキリ  
ストは弟子たち  
にあらわれ、か  
れらと食事を共  
にされた。この  
祈りは南インド  
の合同教会の祈  
りである。

マリヤのうたを  
通して来りたも  
うたメシヤ(救  
主)としてのイ  
エス・キリスト  
の出来事をおぼ  
え交読する。

キリストにある  
神の愛をたたえ  
るときそれにふ  
さわしくない自  
分であることを  
見出す。  
イエスは僕であ  
ると同時に審判  
者であり、聖餐  
にあたってわた  
したちのうち  
にある罪、また世  
界の罪をここに  
告白し、ゆるし  
をこいたい(ヘ  
ブル4:12)

あ い さ つ (一同起立)

司会者：イエスは主なり

会衆：われらはすべてかれのものなり

讃美： 一 同

“あめにはみつかい、よろこびうたえ”

(讃美歌 158)

準備の祈り (会衆着席)

司会者：主よ、われらの中に来たり、われらのうちにや  
どりたまえ、弟子たちの間にあらわれ、パンを  
さいて御自身をあらわにされた主よ、われらの  
うちにいまして、かぎりなく父と聖霊と共に世  
界をすべおさめたまへ。アーメン

交 読 (会衆起立)

交読文：43 (マリヤの歌・ルカ伝1章)

告 白

リーダーA：イエス・キリストは神の言であり、かれは生き  
ていて、力があり、もろ刃のつるぎよりも鋭く  
かれのまえには、あらわでない被造物はひとつ  
もなく、すべてのものは神の目には裸であり、  
あらわにされています。

リーダーB：イエス・キリスト、あなたはこの世界をことごとく  
知っておられます。砂漠はあれはて、洪水  
がおきたり、人間の間には不信とねたみがはび  
こり、あなたがわたしたちに与えてられる賜  
物をかえりみない有様であります。

会衆：わたしたちをとらえ、わたしたちをゆるしてく  
ださい。

リーダーC：主イエスよ、あなたはわたしたちの教会をよく



御存知であります。あなたのめぐみにもかかわらず、与えられている使命を充分に果しえず、ともすれば旧いからの中に閉じこもりがちであります。

会衆：わたしたちをとらえ、わたしたちをゆるして下さい。

リーダーA：主イエスよ、あなたは、わたしたち一人一人をよく御存知であります。忙しさの中におもいわずらい、隣人に対するおもいやりを忘れてたり、わたしたちの責任や使命から無感覚になってしまったり、あるときは放縱にきままな生活をしたり、なすべきことを行なう勇気を失ったりしています。

会衆：わたしたちをとらえ、わたしたちをゆるして下さい。

合 唱 (聖歌隊) (会衆着席)

「わがたまたえよ、主なるかみを」

(讚美歌10)

司会者：兄弟たちよ、こういうわけで、わたしたちはイエスの血によって、はばかることなく聖所にはいることが出来、わたしたちのために開いて下さった新しい生きた道をとおって、はいっていくことができるのである。さらに、わたしたちはキリストによって、心はすすがれて良心のとがめを去りからは清い水で洗われ、まごころをもって信仰の確信に満たされつつ、みまえに近づこうではないか。(ヘブル10：19～22)

ヘブル人への手紙10：19のことばを通し、わたしたちの罪のゆるしをあらわす洗礼を思い出し心をあらたにして、彼の生命に今一度あずかるものでありたい

## Ⅱ 御言の聖務

心の準備のち  
神の言をうける

準備 (起立)

一同：主イエスは、生命のことばであり、永遠につぎない豊かな生命であります。いまその御言をきき、その意味を学び、この世のたたかいにむかう生命の糧を培いたいと思います。

はじめにイ  
スラエルの民に  
対し

聖書 (着席)

1. 旧約聖書：出エジプト記19：1～6 24：3～82

て神がなされた解放者としての働きを学び、これが全人類に対し、イエスを通して成就されたことを知る。ついで書簡を通し初代の教会がイエス・キリストの出来事をいかに理解していたかを学ぶ。

2. 新約聖書 : ヘブル人への手紙1:1~6 2:5~9
3. 新約福音書 : ヨハネによる福音書2:1~11

讃 美 (起立)  
 一同: “むかし主イエスの播きたまいし”  
 (讃美歌234A)

説 教 (着席)  
 「信仰の奇跡」  
 オペリン大学神学部長 ヘイゼルトン博士  
 通訳 北垣宗治兄

信仰の告白 (起立)  
 一同: “日本基督教団信仰告白” (別紙参照)

讃 美  
 一同 “いとまとうとき主はくだりて” (讃美歌 191)

### Ⅲ 聖餐の聖務

いよいよ聖餐をうける。まずわたしたちのすべてをささげよう

とりなしの祈り (起立)  
 司会者: しばらくの間沈黙の中に共に祈りたいと思います。  
 A) 世界のニュース  
 B) 日本のニュース  
 C) 諸教会のニュース  
     i) ニューヨークのイースト・ハラムから  
     ii) オーストラリアのダーウィンから  
     iii) 岡山の開拓伝道から  
 D) わたしたちのニュース  
 主の祈り (起立)

わたしたちの仕事、生活、からだ、すべてをいけるささげものとしてここにもちよる。わたしたちの生活の中に来りたもうたキリストの血と肉を食卓にうける  
 当日の礼拝献金は世界教会の働きの一つとしてミンシッピーのデルタ地帯に設けられている成人教育のセンターの費用の一部にささげられる

献身について、わたしたちはキリストを通して神に感謝をささげる（聖餐のことをユーカリスト eucharist というが、これは感謝をあらわすという意味である）

奉 献

（献金と共に、わたしたちの生活のすべてをささげる  
 その中に来りたもうたイエス・キリストをあらわすパンとぶどうも含まれている）

司会者：天の父なる神よ、今わたしたちは、わたしたちのすべてをここにささげます。わたしたちにあたえられているから、わたしたちのなやみやねがいわたしたちの生活や仕事、わたしたちの教会、そしてわたしたちのからだのすべてをまえにいけるそなえものとしてささげます。勝利者であり、贖主である父なる神よ、あなたによるこばれあなたにふさわしい供物として下さい。

会 衆：すべてのものはあなたに属しています。これをきよめてあなたの働きのために用いて下さい。

感謝の祈り (起立したまま)

司会者：心をひらいて主を待ちのぞみましょう。

会 衆：わがたましいは主をあおぎのぞみます。

司会者：わたしたちは、いまここに、あなたにむかって心をひらき、あなたをまちのぞんでいます。あなたは御子イエス・キリストにおいて永遠の生命をわたしたちに与えて下さいました。かれの肉はわたしたちの生命のパンであり、かれの血は活ける水のようにわたしたちに注がれています。それ故にわたしたちはキリストによって、世界にすむすべての人々が互いに友であることを知らされ、あなたの目的を果すために全教会をあげてともにさんびのうたをうたいたいと思います。

讃 詠 一 同

“父のみ神に、み子に、きよきみ霊に  
 むかしながらのみ栄あれや、ときわにアーメン”

(讚美歌 545)

司会者：われら主にむかいて感謝せん

会 衆：感謝して御名をほめたたえよ

ここにわたしたちはイエスが弟子たちと守りたもうた最初の聖餐のことを想起する。

キリストにある贖罪のわざをおぼえ、聖霊がいまここに働いてこの食卓を祝しキリストの唯一の完全なる賜物を通してわたしたちが養われ、あたらしくされるように祈る。

キリストの体はさかれた。かれの体は十字架においてひきさかれ人々に与えられた。わたしたちも彼と共にさかれるときにかれに用いられるものとなる。このパンをうけ

司式者：主はめぐみふかく、その憐みかぎりなく

会衆：その真実はとこしえにたゆることなし

想 起

制定語 司式者：主イエスわたされたもう夜、パンをとり、祝してこれをさき、弟子たちに与えていいたもう、  
「取りて食せよ、これは汝らのために与うるわが体なり、わが記念としてこれを行え」また夕餐の後、杯を前のごとくしていいたもう「汝らみなこの杯より飲め、これは契約のわか血なり、多くの人のために罪のゆるしを得させんとて流すところのものなり、飲むごとに我が記念として行え」

会衆：われら主に感謝せん

祈 り

司式者：天の父よ、われらは今、み子イエス・キリストの苦難と死および復活と昇天とを記憶し、かつこれより出ずる大いなる恵みを感謝し、主のみ前にみ子の命じ給いし聖礼典をとり行わんとす憐み深き父よ、われらの祈りをきき、みことばとみ霊とをもって、このパンと葡萄酒とを祝しこれをきよめ分ちたまえ。

願わくは、救主イエス・キリストの御定めに従いこのパンと杯とをうけて、キリストの尊き体と血とにあずかることを得させたまえ。願わくはみ子とみ霊とともに統べ給う全能の神に栄光世々限りなくあらんことを アーメン

会衆：われら主に感謝せん

分 餐 (パンをさく)

司式者：いまわたしたちがわけあうパンはキリストの体であり、ぶどう酒はキリストの血であります。これにあずかることによってわたしたちはキリストの体の一部とされるのであります。

会衆：わたしたちの肢は多くありますが、わたしたちはこのパンとぶどう酒とによって一つとなり、一つのかからだにつらねる一部であります。

黙祷、一同 (この間に司式者たちが聖餐をうける)

ることによって  
わかたれがちな  
わたしたちはまた  
一つの交りを  
回復する。

聖餐は聖歌隊が  
はじめにうけ、  
前の方の席の方  
々からつぎつぎ  
と祭壇に出る。  
アシャーの指示  
によって間をあ  
けずに進んで前  
に出て決意をも  
って聖餐をうけ  
る。

聖餐をうけてい  
る間に讚美歌  
121, 205をよろ  
こびをもってと  
もにうたう

おわりの讚美歌  
は希望をもって  
この世に再びか  
えって行く態度  
をあらわす。

祝祷はたんに礼  
拝のおわりをつ  
げるしるしでは  
ない。それはこ  
の世界に出てゆ  
くはげましの祈  
りであり、今日  
からはじまる新  
しいたかひの  
進軍ラップであ  
る。聖餐式にお  
いておきた神の  
贖罪劇はすでに  
この世界でなさ  
れた。それを私  
たちの生活の場

受 餐

司式者：兄弟姉妹よ、これはよろこびにみちた神の民の  
聖なる食卓であります。

会 衆：人が東より、西より、北より、南より来て神の  
国の食卓の席につくでありますよう。

(一同前に出て聖餐をうける)

讚 美 一 同

“うたがよい迷いの闇夜について” (讚美歌 385)

感 謝 の 祈 り 司会者

祝 祷 わたしたちの交りはここに聖別されましたわた  
したちのからだは新しくされました。  
世界は待っています。平安なおもいをもってゆ  
きなさい。  
ねがわくは、主イエス・キリストの恵み、神の  
愛、聖霊の交り汝らすべての者とともにあらん  
ことを アーメン。

(コリント第二13:13)

で実現するためにもう一度、それぞれのつとめの場に帰ってゆくわたしたちの真の仕事は、隣人に対するキリストのかくれたくるしみのはたらきの中に秘められている。

## 世界教会ニュース

★ニューヨーク・イーストハラム はニューヨーク、マンハッタン島の東にある地区で96丁目の通りの北から125丁目に至る地区をいう面積にして約2キロ平方メートルのところにおよそ18万5千人の人たちが住んでいる。40%が黒人50%がポートルコ人、残りの10%がさまざまな国からきた移民であり、喧嘩、麻薬、酔っぱらい、貧困、浮浪者などのうずまく地区である。1948年から数名の教職者と神学生がそこに住みこんで、イースト・ハラム・プロテスタント教区をつくり、伝道と教会形成がなされている。岸本羊一先生は、この教会に、ニューヨーク滞在中はよく参加しておられる。

Mrs. Margaret Stiller  
1 Cooper., Fannie  
Bay Darwin, N. T.  
Australia

★オーストラリア・ダーウィン はオーストラリアの北端にある人口1万8千の小さな街。北州の州庁がある。1942年、日本が爆撃をし、被害をうけた。その場所に1960年長老派組合派、メソジスト派からなる新しい合同教会がたてられ、京都教会の婦人により、千鳥の模様をししゅうした帯が千里の海を距てる和解のしるしとしておくれられ、いまでも同教会の講壇にかけられてある。本日メッセージを下さったマーガレット・ステイラーさんは当教会のオルガンリストで、御主人は学校の先生で、先年休暇を利用して訪日され、わたしたちの教会にも出席された。

★岡山・学生伝道 岡山には古くからキリスト教が伝わり、教会が形成されてきた  
ポール・グリーンーさんは、北米、ミネソタの出身、カルトン大学を卒業して日本に來られ、同志社高校で教鞭をとり、その間京都教会に出席、交りを深めた。一たん米国に帰ってイエール大学で神学を学び再び來日、現在岡山で学生伝道にあたっている。同氏は米国の合同教会より派遣されている宣教師であるが教会の籍は京都

Rev. Paul Griesy  
岡山市上伊福江町  
370の3

教会にあり、わたしたちの仲間である。

- ★ **ミシシッピデルタ地帯** 北米合衆国でもっとも人種的差別のはげしい地方で目下北米の基督教協議会が人種平等の運動をして
- Mississippi Delta Project** いる人々と共に、ミシシッピ河のデルタ地帯に黒人のための成人教育センターを設けている。一人でも多くの黒人が教育を得て、投票権を得る市民となるためである。このために約1億4千万円の費用がいる。そのうち約40%を世界教会協議会(WCC)が応援することになっている。米国の教会が海外の教会に援助を求めたのは今回がはじめてのことである。6月末このために働くため派遣された運動員は暴徒のため殺され、なお前途には幾多の患難が横たわっている。

## Order of Service

### On the World Communion Sunday

Kyoto Church, Oct. 4, 1964.

#### I. THE PREPARATION

**Greeting :** (all stand)

Leader : Jesus is Lord.

People : Our minds and our wills are his.

**Hymn :** Hymn to Joy. (arr. from Ludwig van Beethoven)

**Approach :** (all sit)

Leader : Be present, be present, O Jesus, thou good high Priest, as thou wast among thy disciples, and make thyself known to us in the breaking of bread, thou who livest and reignest with the Father and the Holy Spirit, one God, world without end. Amen.

—The prayer from the Church of South India.

**Confession :**

Leader (A) : (Speaks of God before whom nothing in creation is hidden)

Leader (B) : (Speaks of corruption in Nature and world)

People : Take and forgive,

Leader (C) : (Speaks of limitation and failure of our churches)

People : Take and forgive,

Leader (A) : (Speaks of our own sin)

People : Take and forgive.

Leader : (Reads Heb. 10 : 19 urging us to make a new start.)

Hymn by Choir : O Thou my soul, bless God the Lord (10), Maurice Greene, 1696–1755

#### II. THE MINISTRY OF THE WORD

**Approach :** (standing) All expresses Jesus as the word of life.

**Readings :** (all sit)

(1) The Old Testament lesson : Exodus 19 : 1–6 and 24 : 3–8

(At end) : Our thanks be to you, Jesus

(2) The Epistle : Heb. 1 : 1–6 and 2 : 5–9

(3) The Gospel : John 2 : 1–11

**Hymn :** “Kingdom of God”, Ko Yuki, 1930

**The Living Word :** (Sermon)

“The Miracle of Faith” by Roger Hazelton

**The Creed :** (all stand) The Confession of the United Church of Christ in



Japan.

**Hymn :** “The Church’s one Foundation”, Samuel Wesley, 1864

### III. THE MINISTRY OF THE SACRAMENT

**Offertory :** (We first offer to God through Christ.) The offering will be given to the Inter-Racial Adults Education at Mississippi Delta Area.

**The Intercessions :** (all sit)

Reader (A): The News of the world

Reader (B): The News from the Churches

(1) East Harlem Protestant Parish in New York.

Through Rev. Yoichi Kishimoto

(2) United Church of Christ in Darwin, Australia.

Through Mrs. Margaret Stiller

(3) Frontier Ministry among Students in Okayama.

Through Rev. Paul Griesy

Reader (C): The News of our church members

Lord’s Prayer : (together)

(There are brought forward the offerings of money, of bread and wine.)

**Thanksgiving :** (We give thanks to God through Christ. Eucharist means thanksgiving.)

**Doxology :**

**Anamnesis :** (to remember what He has done in the world)

**The Fraction :**

Celebrant : The bread which we break, is it not the communion of the Body of Christ ?

People : We who are many one bread, one body ; for we all partake of the one bread.

**Communion :**

Celebrant : Brethren, this is the joyful and holy feast of the people of God.

People : They shall come from the East and the West, and from the North and the South, and shall sit down in the kingdom of God.

(We come to receive the bread and the wine, remembering that this is but a foretaste of the messianic feast. While others receive the bread and the wine, hymns will be sung joyfully.)

**Hymn :** “Living in the Struggling World” (385), William S. Bambridge, 1872

**Thanksgiving :**

**Dismissal :**

Celebrant : The Common life has been made holy ; the body

has been remembered ; reconciliation has been represented. The World is waiting. Go in peace, and in all that you do, do it for love and by the Spirit of Jesus, who is Lord.

(The service ends, not with blessing-for that is given in the act of communion, but with a dismissal into all the world : The world whose crucial drama we have represented here. Gathering for worship leads to scattering for mission. What we now are we go to become. What has happened to the world we go to realize. Our lives are hidden in the hidden, suffering Lordship of the man for others.)

## Further Information

### On the Churches in the World

**East Harlem Protestant Parish**, 2050 Second Ave., New York 29, N. Y., U.S.A.

East Harlem is one of the most densely populated and struggling areas in the world. It represents a challenging life of the Metropolis of the Twentieth Century. It starts from the north of the 96th Street, and leads to the 125th Street. The western boundary is Central Park ; the eastern, a river. Here in a little over one square mile live approximately 185,000 people, a polyglot mixture ; roughly 40% American Negroes, 50% Puerto Ricans, and 10% remnants from all the previous immigrant groups.

The Interdenominational Parish, EHPP has been working since spring of 1948. It is a group ministry of committed men and women sharing together the burden and joy of the people of the East Harlem which is also a part of the God's World. The message read this morning was sent by Rev. Yoichi Kishimoto, the former associate minister of the Kyoto Church, who is now participating in the life of the East Harlem Protestant Parish while he is studying at the Union Theological Seminary, New York. His letter is read by Miss Kuniko Katsuyama, a member of Youth Fellowship of the Kyoto Church.

### **United Church of Christ in Darwin, Australia**

The message sent by Mrs. Margaret Stiller, 1 Cooper Fannie Bay, Darwin, N. T., Australia, Will be read by Mrs. Kyoko Kato who has just returned from Australia. Darwin is located on the northern edge of Australia. It is a small town with the population of 18,000. Feb. 1943 planes of the Japanese Air Force bombed the city and destroyed the postoffice, and several people were killed. Prof. Takenaka visited the church March 1960 and established a friendship with the church which was planning to build a new building at the place

where the Army Head quarter was located during the War. Mrs. Masu Okabayashi, a member of Women's Fellowship at the Kyoto Church, made a gift of a beautiful Japanese OBI, a golden embroidered sash, for the lectern cloth. It has a picture of a group plovers over the ocean waves, symbolizing the spirit of reconciliation between two countries in Christ. A number of mutual exchanges have been taking place between two churches personally and spontaneously.

United Church in Darwin is the first United Church in Australia. It includes Methodists, Presbyterians and Congregationalists. We would like to pray for the growth and maturity of the Christian Community in Darwin.

### **Pioneer Mission among Students in Okayama**

Okayama is known as the area which had a close relationship with the Christian Community in Kyoto and produced many of prominent men. Three of the four outstanding social workers recognized by the Japanese Government in 1957 were in fact the product of the Christian mission in Okayama, Juji Ishii, Gunpei Yamamuro and Kosuke Tomeoka. Paul Griesy, a member of the Kyoto Church, a young missionary of the United Church in U.S.A. has been working among students in Okayama. Living with four students sharing life together, Paul teaches at Okayama University, leads Interdenominational Youth Choir, and helps the pioneering ministry of a small church outside the city. The message of Paul will be read by Dr. Yoshio Sakabe, one of the close friends of Paul's.

### **Mississippi Delta Project**

The offering of the today's service will be sent to Mississippi Delta Project. This is carried out by National Council of Churches in U.S.A. together with other organizations which are working to strengthen the effort of civil right. The project intends to promote the adult education for the Negroes in order for them to attain more voters. The total amount of the project is about \$ 400,000. The World Council of Churches, through its Division of the Inter-Church Aid decided to accept the request of the NCC of U. S. A. which is asking for about 40% of the total budget from the churches in the world. In a number of ways we know well that churches in U.S.A. have helped churches abroad generously. This is the first time they have requested an assistance to the Inter-Church Aid. We would like to respond to this invitation expressing that our prayers and concerns are with them, submitting this offering.

**Cover Design :** Originally designed by Tadao Tanaka, noted contemporary Japanese Christian Artist in Tokyo for the stained glass window at East Kobe Church. Upper left indicates the symbol of the ecumenical movement ; the middle right expresses the wheet pointing out Jesus Christ who is the bread

of life ; and the lower left shows that He is the true vine and every branch will bear much fruit if it abides in him.

⑤ 受餐は司式者相互から始めた。二種同時に受餐を終る。式文では式中実際にパンをさく事になっていたが、ちょっとした手違いからさくパンが用意されていなかったでこれを行わなかった。然し、それでよかったと思う。

⑥ ニュースは各担当者が自由な形式で報告した。送られて来たメッセージはそのまま読まれた。

⑦ 当日の礼拝統計概様は次の通りである。(出席者) 教会員 145, 求道者 28, 外人 21, その他教会員 5, 子供 6, 合計 205, (陪餐者) 171, (献金) 1万2千円。

### 評価・反省

全体として非常に順調であった。聖餐式が長時間かかるのではないかと心配されたが、それ自体の時間は余りかからず、様式変更にもなう混乱もなかった。その理由として、京都教会は平常から式典的訓練が出来ていること。参加者の大部分が前もって説明をうけプログラムをよく理解していたこと。各担当者がよく準備していたなどがあげられる。

準備段階に於ける協議決定の大部分は適当であったが、次の点が改善を要する。

① 所要時間が長過ぎた。参加者から特にこの事に関する批判があったわけではなく、むしろ内容上この程度の所要時間はやむを得ないとの感想が強かったが、客観的にはやはり長過ぎたと云える。これはニュース報告が長すぎたためである。ニュースはやはり形式を統一し簡潔に要点を整理しておくべきであった。

② 献金の方式が適切でなかった。受付に十分な配慮をして準備し、説明係もいたにもかかわらず、平常の習慣からか、献金をせずに入堂した者が割合に多かった。この献金の仕方は方策の問題にとどまらず、神学的にも反省を要することで、やはり礼拝の中で集める方が適当であろう。

〈参加者の反響〉 世界聖餐日礼拝として非常に好評であった。就中、前に出て受餐する方式に関しては、今後も実行を希望する意見が強かった。聖餐式の求道者に与えた印象も非常に良く、充実した聖餐式と適切な説明は求道者にも好

感を与える。充実した聖餐式とは司式者、陪餐者の真摯な信仰にあふれた聖餐式の事であり、適切な説明とは聖書にもとづき、教会の秩序に従った正統的な説明であり、理論的主観的な解釈を主とした説明はよくない様に思える。

## 結 語

ひとつの試みとしては成功したが、以下の様な制限と問題点がある。

此の礼拝はどの教会にもそのまま妥当出来るとは思えない。その理念は普遍的なものであっても、竹中正夫氏の指導のもとで、京都教会の現状、乃至その性格と必要とを十分に考慮して最適と思える仕方ですべて具体化したわけであるから、もしこのままの形式を異質な状況のもとで実施すれば全く相違した結果を生むかも知れない。

又参加者一般に好評を得たと云う事とは無関係に、次の諸点を十分に検討せねばならないと思う。

それは神学的問題である。聖礼典としての聖餐式に於ける超越性、客観性と受餐者の実感性、主観性との問題がそれである。聖礼典の本質は受ける者の人間の主観的実感や判断を超越して受ける者に有効である点、即ちその超越的絶対的恩寵にこそあるのではないか。人間的な実感や判断による確かさの権威の否定である云う事も出来よう。従って聖礼典に人間の実感性を導入することは悪くすると、人間が聖礼典の価値判断の権利を保留する事となって人間の限界を超越して働く絶対的恩寵優先が否定される事になる危険がある。然しながら同時に逆も考えねばならない。即ち、聖餐式に於いて神の恩寵が人間によって受けられねばならない限りに於いて、信仰体験としての実感がともなわねばならない。もしそう云う人格的体験面を否定すれば前者とは逆の危険、即ち人格性喪失による形式主義、乃至機械主義に墮す危険がある。だから聖礼典の中に人間的体験的実感的要素を生かす事は非常に重要な事であるとともに細心の注意を要することである。

以上の事は聖餐式や礼拝に於けるシンボリズムの問題でもある。キリスト教の表現様式の問題の取扱も慎重を要する。概して欧米人はダイナミック且過剰表現（日本人一般から見ての）的な表現様式をもって内的なものを表現伝達す

るのに対して、日本人一般は静的且ひかえ目な表現様式を用いるのが常である。その相違は各芸術分野に明白である。もっとも最近では漸次その差がなくなりつつある様であるが、やはり根本的な質的相違があることは否定出来ない。従って欧米的シンボリズムと表現様式をそのまま導入しても日本人一般に適合する筈はない。わたしたちはわたしたちに適合するシンボリズムと表現様式を創造せねばならない。概して云えることは、表現内容が高次のものであればある程、形式的には余計な飾りを切り捨てて簡潔にする方が適切であるのではないか。それが証しの芸術の本質であると云える。今後の方向は、その様な教会芸術論をもととして、洗練された形式で無限の内容を象徴する事が必要の様に思える。

(京都教会担任教師)